

対象校No. 682
注4

学校コード F119310105734
注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 学部の学科の設置
注1

届出

注2
健康科学大学 健康科学部 ビリテーション (理学療法学科コース、作業療法学科コース)

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人 健康科学大学
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 教務部 教務課

職名・氏名

電話番号 0555-83-5220

(夜間) 0555-83-5220

e-mail kyoumu@kenkoudai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

健康科学部

＜リハビリテーション学科 理学療法学コース、作業療法学コース＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	14
3. 施設・設備の整備状況、経費	32
4. 既設大学等の状況	33
5. 教員組織の状況	34
6. 附帯事項等に対する履行状況等	53
7. その他全般的事項	54

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 健康科学大学

(2) 大 学 名 健康科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒401-0380
山梨県南都留郡富士河口湖町小立7187

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ササモト ノリオ) 笹本 憲男 (令和3年4月)		
学 長	(ササモト ノリオ) 笹本 憲男 (令和3年4月)	(カシモト サトシ) 榎本 温 (令和6年4月)	任期満了に伴う学長の交代 令和6年4月1日 (6)
学 部 長	(タカムラ ヒロシ) 高村 浩司 (令和3年4月)		
学科長等	(カスヤマ タツヤ) 粕山 達也 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
- (例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和6年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 リハビリテーション学科 学士（一）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	4 年	120 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	480 人	—	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 120 (—) [—]	人 120 (—) [—]	人 120 (—) [—]	人 120 (—) [—]	—	0.67 倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	146 (—) [—]	— (—) [—]	137 (—) [—]	— (—) [—]				
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	143 (—) [—]	— (—) [—]	134 (—) [—]	— (—) [—]				
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	143 (—) [—]	— (—) [—]	134 (—) [—]	— (—) [—]				
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	97 (—) [—]	— (—) [—]	74 (—) [—]	— (—) [—]				
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	0.80	—	0.61	—				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。
- （春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。）
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
- ・ なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
- ・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	97 [－] (－)	－ [－] (－)	78 [－] (－)	－ [－] (－)	
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	85 [－] (－)	－ [－] (－)	
3 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
4 年次									－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計			－ [－] (－)		－ [－] (－)				[] ()		[] ()		

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	97 人	0 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	163 人	6 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	6 人	0 人	進路変更のため(6人)
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		6 人		6 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{97} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{163} = \boxed{3.68} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学科 学士(理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	80人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	320人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	80 () []	人 () []	80 () []	人 () []	-	0.67 倍	-	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	105 () []	() []	98 () []	() []	-			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	103 () []	() []	95 () []	() []	-			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	103 () []	() []	95 () []	() []	-			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	66 () []	() []	47 () []	() []	-			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	0.82	-	0.58	-	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分が設定を中止している場合は、「春季入学以外の学期区分について」に「春季入学以外の学期区分を中止している」と記入してください。
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	66 [—] (—)	— [—] (—)	48 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	60 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	66 [—] (—)	— [—] (—)	108 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	66 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
令和6年度	108 人	3 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	3 人	0 人	進路変更のため(3人)
			令和6年度	- 人	- 人	
合 計		3 人		3 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) ー⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{66} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{108} = \boxed{2.77} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学科 学士(作業療法学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4 年	40 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	160 人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	40 () [-]	人 () [-]	40 () [-]	人 () [-]	-	0.68 倍	-	
志願者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	41 () [-]	() [-]	39 () [-]	() [-]	-			
受験者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	40 () [-]	() [-]	39 () [-]	() [-]	-			
合格者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	40 () [-]	() [-]	39 () [-]	() [-]	-			
B 入学者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	31 () [-]	() [-]	27 () [-]	() [-]	-			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	0.77	-	0.67	-	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設置を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」の「-」を選択してください。
(春季入学以外の学期区分の設置を予定していない場合は「-」を選択)
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	31 [—] (—)	— [—] (—)	30 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	25 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	31 [—] (—)	— [—] (—)	55 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	31 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	- 人	
令和6年度	55 人	3 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	3 人	0 人	進路変更のため(3人)
			令和6年度	- 人	- 人	
合 計		3 人		3 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) ー⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{31} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{55} = \boxed{5.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学コース>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1			2	1		4		兼3	
		基礎演習Ⅱ	1後	1			1	1		5		兼3	
		人権と法	1・2前	2								兼1	
		教育原理	1・2前	2			1						
		経済と経営	1・2後	2			1						
		現代医療史	1・2前	1								兼1	
		宗教学	1・2後	1			1						
		現代社会と倫理	1・2前	1			1						
		情報リテラシー	1前	1			1						
		基礎数学演習	1前	1								兼1	
		物理基礎	1前	1								兼1	
		化学基礎	1前	1								兼1	
		統計学	1後	2			1						
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前	2								兼1	
		人間学	1・2前	1			1					兼1	
		生命科学	1・2後	1								兼2	
		比較行動学	1・2後	2								兼1	
		山梨の自然と文化・産業	1・2前	2			1						
		富士山と環境	1・2後	2			1						
		生活健康学	1・2前	2								兼1	
		スポーツの理論と実際	1・2前・後	1			1						
	小計(21科目)		—	8	22	0	13	2	0	9	0	兼17	
	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			3			1		兼3	
		発達心理学	1後	1	2							兼1	
		人間関係論	1前	1								兼1	
		コミュニケーション論	1・2後	1								兼1	
		世界の福祉	1・2前	2								兼1	
		点字の理論と実際	1・2前	2								兼1	
		手話の理論と実際	1・2前	2								兼1	
		異文化比較論	1・2前	1		2			1			兼1	
		共生学	1・2後	1								兼1	
		世界と対話	2通	2								兼1	
		地域連携の理論と実際	1・2後	2		1							
		ボランティア活動の実際	1・2通	1								兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後	1		1			1			兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後	1		1			1			兼1	
		人間基礎科目群 小計(14科目)	—	2	18	0	8	0	0	4	0	兼16	
		外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1						1		兼1
			英語Ⅰ-2	1後	1						1		兼1
			英語Ⅱ-1	2前	1						1		兼1
			英語Ⅱ-2	2後	1						1		兼1
	英語リーディング・ライティング		1・2後	1						1		兼1	
	英語コミュニケーション		1・2前	1						1		兼1	
	英語会話		1・2前・後	1						1			
	基礎韓国語		1・2前	1		1							
	基礎中国語		1・2前	1		1							
	はじめての韓国語会話		1・2後	1		1							
	はじめての中国語会話		1・2後	1		1							
	外国語科目群 小計(11科目)		—	4	7	0	4	0	0	7	0	兼6	
	総合基礎科目領域 小計(46科目)		—	14	47	0	25	2	0	20	0	兼39	
専門科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2			2						
		解剖学Ⅱ	1後	2			2						
		解剖学演習	1・2・3・4後	1			2			1			
		解剖学実習	1前	1			3						
		生理学	1前	2			1	1					
		生理学演習	1後	2			1	1				兼1	
		生理学実習	2前	1			1	1				兼1	
		運動学Ⅰ	1前	2						2			
		運動学Ⅱ	1後	2						2			
		運動学実習	2前	1						7			
		人間発達学	1後	2			2			1			
		病理学	1後	1			1						
		薬学	2後	1								兼1	
		栄養学	2後	2								兼1	
		公衆衛生学	1・2前	1								兼1	
		バイオメカニクス	2後	2						1			
		微生物学・免疫学	2・3後	2			1						
	基礎医学系 小計(17科目)	—	21	6	0	16	3	0	14	0	兼5		
	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1								兼1	
		整形外科	2前	2								兼1	
		神経内科学	2前	2								兼1	
		小児科学	2前	1								兼1	
		内科学	2後	2								兼1	
		精神医学	2前	2								兼1	
		リハビリテーション医学	2後	1								兼1	
	臨床医学系 小計(7科目)		—	11	0	0	0	0	0	0	0	兼7	

【令和6年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置				兼任・ 兼担			
				必修 修	選択 択	自由 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手		
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1			2			2	2		兼2	
		基礎演習Ⅱ	1後	1			1		3	2		兼2		
		人権と法	1・2前		2								兼1	
		教育原理	1・2前		2								兼1	
		経済と経営	1・2後		2								兼1	
		現代医療史	1・2前		1								兼1	
		宗教学	1・2後		1								兼1	
		現代社会と倫理	1・2前		1								兼1	
		情報リテラシー	1前	1									兼1	
		基礎数学演習	1前	1									兼1	
		物理基礎	1前	1									兼1	
		化学基礎	1前	1			1						兼1	
		統計学	1後		2								兼1	
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前		2								兼1	
		人間学	1・2前		1								兼3	
		生命科学	1・2後		1								兼2	
		比較行動学	1・2後		2								兼1	
		山梨の自然と文化・産業	1・2前		2		1							
		富士山と環境	1・2後		2		2							
		生活健康学	1・2前		2		1							
		スポーツの理論と実際	1・2前・後										兼1	
	小計(21科目)		—	8	22	0	8	0	5	4	0	兼23		
	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			2	1			1		兼4	
		発達心理学	1後		2								兼1	
		人間関係論	1前	1									兼1	
		コミュニケーション論	1・2後		1								兼1	
		世界の福祉	1・2前		2								兼1	
		点字の理論と実際	1・2前		2								兼1	
		手話の理論と実際	1・2前		2								兼1	
		異文化比較論	1・2前		1		1						兼2	
		共生学	1・2後		1								兼1	
		世界と対話	2通										兼1	
		地域連携の理論と実際	1・2後		2		1						兼1	
		ボランティア活動の実際	1・2通		1								兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後		1		1		1				兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後		1		1		1				兼1	
		人間基礎科目群 小計(14科目)		—	2	18	0	6	1	2	1	0	兼18	
		外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1									兼2
			英語Ⅰ-2	1後	1									兼2
			英語Ⅱ-1	2前	1									兼2
			英語Ⅱ-2	2後	1									兼2
	英語リーディング・ライティング		1・2後		1								兼1	
	英語コミュニケーション		1・2前		1								兼1	
	英語会話		1・2前・後		1								兼1	
	基礎韓国語		1・2前		1		1						兼1	
	基礎中国語		1・2前		1		1						兼1	
	はじめての韓国語会話		1・2後		1		1						兼1	
	はじめての中国語会話		1・2後		1		1						兼1	
	外国語科目群 小計(11科目)		—	4	7	0	4	0	0	0	0	兼11		
	総合基礎科目領域 小計(46科目)		—	14	47	0	18	1	7	5	0	兼52		
専門科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2			2						兼3	
		解剖学Ⅱ	1後	2			3						兼2	
		解剖学演習	1・2・3・4後		1		2			1			兼1	
		解剖学実習	1前	1			3						兼1	
		生理学	1前	2			1						兼1	
		生理学演習	1後	2			1						兼1	
		生理学実習	2前	1			1						兼1	
		運動学Ⅰ	1前	2					1				兼1	
		運動学Ⅱ	1後	2						1			兼1	
		運動学実習	2前	1					1	2			兼1	
		人間発達学	1後	2			1						兼1	
		病理学	1後	1			1						兼1	
		薬学	2後	1									兼1	
		栄養学	2後	2			1						兼1	
		公衆衛生学	1・2前		1								兼1	
		バイオメカニクス	2後	2						1			兼1	
		微生物学・免疫学	2・3後	2			1						兼1	
	基礎医学系 小計(17科目)		—	21	6	0	17	0	3	4	0	兼3		
	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1									兼1	
		整形外科	2前	2									兼1	
		神経内科学	2前	2			1						兼1	
		小児科学	2前	1									兼1	
		内科学	2後	2			1						兼1	
精神医学		2前	2									兼1		
リハビリテーション医学		2後	1								兼1			
臨床医学系 小計(7科目)		—	11	0	0	2	0	0	0	0	兼5			

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置				兼任 ・ 兼担		
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									兼1	
		社会理論と社会システム	1・2前	2		1							兼1	
		社会保障論Ⅰ	1・2後	2		1							兼1	
		就労支援サービス	2前	2									兼1	
		精神保健学Ⅰ	2・3前	2									兼1	
		精神保健学Ⅱ	2・3後	2									兼1	
		高齢者福祉	2・3後	2									兼1	
		介護福祉	2・3後	2									兼1	
		障害者福祉	2・3後	2									兼1	
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	2	0	0	0	0		兼8	
臨床人間学系	臨床心理学	2前	2									兼1		
	神経心理学	2後	2									兼1		
	児童青年心理学	2・3前	2									兼1		
	障害者心理学	2・3後	2									兼1		
	社会心理学	2・3後	2									兼1		
	臨床人間学スタディーズ	2・3前	2					1				兼2		
	臨床社会学スタディーズ	2・3後	2		1							兼2		
	ジェンダースタディーズ	2・3前	1									兼3		
	コミュニケーションスタディーズ	2・3後	1					1				兼2		
	チーム医療演習	4後	1			1								
臨床人間学系 小計(10科目)		—	1	16	0	2	0	0	2	0		兼13		
専門基礎科目群 小計(43科目)		—	35	38	0	20	3	0	16	0		兼33		
専門科目領域	専門科目群	理学療法概論	1前	2			1							
		理学療法演習Ⅰ-1	1前	1		3	1		7					
		理学療法演習Ⅰ-2	1後	1		3	1		7					
		運動解剖学	2前	2			1							
		臨床運動学	2後	2		1	1							
		理学療法研究法	3前	1					1					
		卒業研究	4通	4		9	2	1	12					
		理学療法管理学	3前	2		1								
		理学療法評価学	2前	2					2					
		理学療法評価学実習	2後	1					2					
		理学療法演習Ⅱ-1	2前	1		3	1		7					
		理学療法演習Ⅱ-2	2後	1		3	1		7					
		運動器系理学療法評価学演習	2後	1		1	1		1					
		神経系理学療法評価学演習	2後	1		1			2					
		内部障害系理学療法評価学演習	2後	1					3					
		クリニカルリズニング	2後	1		1			2					
		理学療法治療学	2後	2		1								
		運動療法学	2後	2					1					
		理学療法演習Ⅲ	3後	1		3	1		7					
		運動器系理学療法学実習	3前	1		1	1							
		神経系理学療法学実習	3前	1		1			1					
		内部障害系理学療法学実習	3前	1					2					
		日常生活活動学	2後	2					1					
		日常生活活動学実習	3前	1					2					
		義肢装具学	2後	2										
		義肢装具学実習	3前	1					3					
		物理療法学	3前	2					3					
		小児理学療法学	3前	2		1								
		理学療法演習Ⅳ	4通	1		3	1		7					
		理学療法特論	4後	2		5	1		7					
		マニュアルセラピー	3前		2		1							
		地域生活支援学	3前	2					1					
		高次脳機能障害治療学	3前	2		1								
		スポーツリハビリテーション学	4後	2		1			1					
		スポーツ医学	4後		1								兼1	
		地域理学療法学	2後	2		1								
		予防理学療法学	3前	1		1								
		見学実習	1通	1		3	1		7					
		地域理学療法学実習	2通	1		3	1		7					
		検査測定実習	2後	1		3	1		7					
		評価実習	3後	6		3	1		7					
		総合臨床実習	4通	11		3	1		7					
		専門科目群 小計(35科目)		—	64	13	0	61	19	1	125	0	0	
		専門科目領域 小計(84科目)		—	99	51	0	81	22	1	141	0		兼1
合計(130科目)		—	113	98	0	106	24	1	161	0		兼73		
卒業要件及び履修方法														
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))														
<理学療法学コース>														
総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)														
専門基礎科目105単位以上(必修35単位および選択必修1単位、														
専門科目(必修63単位および自由選択5単位以上)														

科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置					兼任・ 兼担
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									兼1	
		社会理論と社会システム	1・2前	2									兼1	
		社会保障論Ⅰ	1・2後	2									兼1	
		就労支援サービス	2前	2									兼1	
		精神保健学Ⅰ	2・3前	2									兼1	
		精神保健学Ⅱ	2・3後	2									兼1	
		高齢者福祉	2・3後	2									兼1	
		介護福祉	2・3後	2									兼1	
		障害者福祉	2・3後	2									兼1	
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	兼9	
臨床人間学系	臨床心理学	2前	2									兼1		
	神経心理学	2後	2									兼1		
	児童青年心理学	2・3前	2									兼1		
	障害者心理学	2・3後	2									兼1		
	社会心理学	2・3後	2									兼1		
	臨床人間学スタディーズ	2・3前	2						1			兼2		
	臨床社会学スタディーズ	2・3後	2									兼3		
	ジェンダースタディーズ	2・3前	1		1		1					兼1		
	コミュニケーションスタディーズ	2・3後	1									兼3		
	チーム医療演習	4後	1		2		2					兼4		
臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	3	0	3	1	0		兼18			
専門基礎科目群 小計(43科目)		—	35	38	0	22	0	6	5	0		兼35		
専門科目領域	専門科目群	理学療法概論	1前	2			1							
		理学療法演習Ⅰ-1	1前	1		4	1	3	3					
		理学療法演習Ⅰ-2	1後	1		4	1	3	3					
		運動解剖学	2前	2			1							
		臨床運動学	2後	2			1	1						
		理学療法研究法	3前	1							1			
		卒業研究	4通	4		6	1	3	4					
		理学療法管理学	3前	2			1							
		理学療法評価学	2前	2					1	2				
		理学療法評価学実習	2後	1					2	3				
		理学療法演習Ⅱ-1	2前	1		2	1	3	4					
		理学療法演習Ⅱ-2	2後	1		2	1	3	4					
		運動器系理学療法評価学演習	2後	1		1	1	1	2					
		神経系理学療法評価学演習	2後	1		1				1				
		内部障害系理学療法評価学演習	2後	1					1	2				
		クリニカルリズニング	3後	1		1		2						
		理学療法治療学	3前	2		1								
		運動療法学	3前	2					2	2				
		理学療法演習Ⅲ	3後	1		2	1	3	3					
		運動器系理学療法実習	3前	1		1	1	1	1					
		神経系理学療法実習	3前	1		1								
		内部障害系理学療法実習	3前	1					1	3				
		日常生活活動学	2後	2						1				
		日常生活活動学実習	3前	1					1					
		義肢装具学	2後	2						1	1			
		義肢装具学実習	3前	1					1	1				
		物理療法学	3前	2		1		1	2					
		小児理学療法学	3前	2		1							兼1	
		理学療法演習Ⅳ	4通	1		4	1	3	3					
		理学療法特論	4後	2		5	1	3	4					
		マニュアルセラピー	3前	2			1							
		地域生活支援学	3前	2					1					
		高次脳機能障害治療学	3前	2		1								
		スポーツリハビリテーション学	4後	2		1		1						
		スポーツ医学	4後	1									兼1	
		地域理学療法学	2後	2		1								
		予防理学療法学	3前	1		2		1	1					
		見学実習	1通	1		2	1	3	4					
		地域理学療法実習	2通	1		2	1	3	4					
		検査測定実習	2後	1		2	1	3	4					
		評価実習	3後	6		2	1	3	4					
		総合臨床実習	4通	11		2	1	3	4					
		専門科目群 小計(35科目)		—	64	13	0	55	18	59	67	0		兼2
		専門科目領域 小計(84科目)		—	99	51	0	77	18	65	72	0		兼37
合計(130科目)		—	113	98	0	95	19	72	77	0		兼89		
卒業要件及び履修方法														
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))														
<理学療法学コース>														
総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)														
専門基礎科目105単位以上(必修35単位および選択必修1単位、 専門科目(必修63単位および自由選択65単位以上)														

【令和5年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1			2	1	2	2		兼2	
		基礎演習Ⅱ	1後	1		1	1	2	3		兼2		
		人権と法	1・2前	2								兼1	
		教育原理	1・2前	2								兼1	
		経済と経営	1・2後	2								兼1	
		現代医療史	1・2前	1		1						兼1	
		宗教学	1・2後	1								兼1	
		現代社会と倫理	1・2前	1								兼1	
		情報リテラシー	1前	1								兼1	
		基礎数学演習	1前	1								兼1	
		物理基礎	1前	1								兼1	
		化学基礎	1前	1								兼1	
		統計学	1後	2								兼1	
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前	2								兼1	
		人間学	1・2前	1		1						兼2	
		生命学	1・2後	1								兼2	
		比較行動学	1・2後	2								兼1	
		山梨の自然と文化・産業	1・2前	2		1							
		富士山と環境	1・2後	2		1							
		生活健康学	1・2前	2		1							
		スポーツの理論と実際	1・2前・後	1								兼1	
		小計(21科目)	—	8	22	0	8	2	4	5	0	兼20	
	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			2			2		兼4	
		発達心理学	1後	2								兼1	
		人間関係論	1前	1								兼2	
		コミュニケーション論	1・2後	1								兼1	
		世界の福祉	1・2前	2								兼1	
		点字の理論と実際	1・2前	2								兼1	
		手話の理論と実際	1・2前	2								兼1	
		異文化比較論	1・2前	1		1						兼3	
		共生学	1・2後	1								兼1	
		世界と対話	2通	2								兼1	
		地域連携の理論と実際	1・2後	2		1						兼1	
		ボランティア活動の実際	1・2通	1								兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後	1		1		1				兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後	1		1		1				兼1	
		人間基礎科目群 小計(14科目)	—	2	18	0	6	0	2	2	0	兼20	
		外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1								兼2
			英語Ⅰ-2	1後	1								兼2
			英語Ⅱ-1	2前	1								兼2
	英語Ⅱ-2		2後	1								兼2	
	英語リーディング・ライティング		1・2後	1								兼1	
	英語コミュニケーション		1・2前	1								兼1	
	英語会話		1・2前・後	1								兼1	
	基礎韓国語		1・2前	1		1							
	基礎中国語		1・2前	1		1							
	はじめての韓国語会話		1・2後	1		1							
	はじめての中国語会話		1・2後	1		1							
	外国語科目群 小計(11科目)		—	4	7	0	4	0	0	0	0	兼11	
	総合基礎科目領域 小計(46科目)			—	14	47	0	18	2	6	7	0	兼51
専門科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2			2						
		解剖学Ⅱ	1後	2		2							
		解剖学演習	1・2・3・4後	1		2		1					
		解剖学実習	1前	1		3							
		生理学	1前	2		1	1						
		生理学演習	1後	2		1	1						
		生理学実習	2前	1		1	1						
		運動学Ⅰ	1前	2				1				兼1	
		運動学Ⅱ	1後	2					1	4		兼1	
		運動学実習	2前	1				2					
		人間発達学	1後	2		1				1			
		病理学	1後	1		1							
		薬学	2後	1								兼1	
		栄養学	2後	2			1						
		公衆衛生学	1・2前	1								兼1	
		バイオメカニクス	2後	2					1				
		微生物学・免疫学	2・3後	2		1							
		基礎医学系 小計(17科目)	—	21	6	0	16	3	4	7	0	兼4	
	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1								兼1	
		整形外科	2前	2		1							
		神経内科学	2前	2		1							
		小児科学	2前	1								兼1	
		内科学	2後	2		1							
		精神医学	2前	2								兼1	
		リハビリテーション医学	2後	1		1							
	臨床医学系 小計(7科目)			—	11	0	0	4	0	0	0	0	兼3

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置				兼任 ・ 兼担	
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前		2								兼1
		社会理論と社会システム	1・2前		2								兼1
		社会保障論Ⅰ	1・2後		2								兼1
		就労支援サービス	2前	2									兼1
		精神保健学Ⅰ	2・3前		2								兼1
		精神保健学Ⅱ	2・3後		2								兼1
		高齢者福祉	2・3後		2								兼1
		介護福祉	2・3後		2								
		障害者福祉	2・3後		2								兼1
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	兼8
臨床人間学系	臨床心理学	2前		2									兼1
	神経心理学	2後		2									兼1
	児童青年心理学	2・3前		2									兼1
	障害者心理学	2・3後		2									兼1
	社会心理学	2・3後		2									兼1
	臨床人間学スタディーズ	2・3前		2									兼3
	臨床社会学スタディーズ	2・3後		2									兼3
	ジェンダースタディーズ	2・3前	1			1		1					兼1
	コミュニケーションスタディーズ	2・3後	1										兼3
	チーム医療演習	4後	1			2			2			兼4	
	臨床人間学系 小計(10科目)	—	1	16	0	3	0	1	2	0		兼19	
	専門基礎科目群 小計(43科目)	—	35	38	0	23	3	5	9	0		兼34	
専門科目領域	専門科目群	理学療法概論	1前		2		1						
		理学療法演習Ⅰ-1	1前	1			2	1	2	5			
		理学療法演習Ⅰ-2	1後	1			2	1	2	5			
		運動解剖学	2前		2		1						
		臨床運動学	2後		2		1	1					
		理学療法研究法	3前	1							2		
		卒業研究	4通		4		6	2	3	9			
		理学療法管理学	3前	2			1						
		理学療法評価学	2前	2					1	1			
		理学療法評価学実習	2後	1					1	3			
		理学療法演習Ⅱ-1	2前	1			3	1	2	5			
		理学療法演習Ⅱ-2	2後	1			3	1	2	5			
		運動器系理学療法評価学演習	2後	1			1	1		1			
		神経系理学療法評価学演習	2後	1			1			1			
		内部障害系理学療法評価学演習	2後	1						3			
		クリニカルリーズニング	2後	1			1		1	2			
		理学療法治療学	2後	2			1						
		運動療法学	2後	2					1	2			
		理学療法演習Ⅲ	3後	1			2	1	1	4			
		運動器系理学療法実習	3前	1			1	1					
		神経系理学療法実習	3前	1			1						
		内部障害系理学療法実習	3前	1							3		
		日常生活活動学	2後	2						1			
		日常生活活動学実習	3前	1							2		
		義肢装具学	2後	2						1	1		
		義肢装具学実習	3前	1						1	2		
		物理療法学	3前	2			1		1	1	2		
		小児理学療法学	3前	2			1						兼1
		理学療法演習Ⅳ	4通	1			1	1	1	5			
		理学療法特論	4後	2			6	1	1	3			
		マニュアルセラピー	3前		2			1					
		地域生活支援学	3前		2						1		
		高次脳機能障害治療学	3前		2		1						
		スポーツリハビリテーション学	4後		2		1						
		スポーツ医学	4後		1		1						
		地域理療法学	2後	2			1						
		予防理療法学	3前	1			2				2		
		見学実習	1通	1			2	1	2	5			
		地域理療法学実習	2通	1			2	1	2	5			
		検査測定実習	2後	1			2	1	2	5			
		評価実習	3後	6			2	1	2	5			
		総合臨床実習	4通	11			2	1	2	5			
	専門科目群 小計(35科目)	—	64	13	0	52	19	32	94	0		兼1	
	専門科目領域 小計(84科目)	—	99	51	0	75	22	37	103	0		兼35	
		合計(130科目)	—	113	98	0	93	24	43	110	0	兼88	
卒業要件及び履修方法													
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))													
<理学療法学コース>													
総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)													
専門基礎科目105単位以上(必修35単位および選択必修1単位、													
専門科目(必修63単位および自由選択5単位以上)													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例: 記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和2年度】(旧)→【令和1年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、准教授1、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、准教授1、講師2、助教3、兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「現代医療史」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間関係論」の教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語 リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語 コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「人間発達学」の教員配置を「教授2、兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅰ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「整形外科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「リハビリテーション医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床人間学スタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職により、「理学療法研究法」の教員配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授6、准教授2、講師3、助教9」に変更。
- ・担当教員の採用により、「理学療法評価学」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の採用により、「理学療法評価学実習」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授3、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・専門性の深化のため、「神経系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「クリニカルリブズニング」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「神経系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の採用により、「運動療法学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅲ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師1、助教4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「内部障害系理学療法実習」の教員配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「日常生活活動学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の退職、職位変更により、「義肢装具学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「義肢装具学実習」の教員配置を「助教3」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「物理療法学」の教員配置を「助教3」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「小児理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅳ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授1、准教授1、講師1、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法特論」の教員配置を「教授5、准教授1、助教7」から「教授6、准教授1、講師1、助教3」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「スポーツ医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「予防理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授2、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「見学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「地域理学療法学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「検査測定実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「評価実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「総合臨床実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師2、助教5」に変更。

【令和6年度】

- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、講師3、助教2、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「化学基礎」の教員配置を「兼任1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間学」の教員配置を「教授1、兼1」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「富士山と環境」の教員配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生活健康学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、准教授1、助教1、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語 リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語 コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語 会話」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学実習」の教員配置を「助教7」から「講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「栄養学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「社会理論と社会システム」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「テーマ医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師2、兼任4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授4、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授4、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授6、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の採用により、「理学療法評価学」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の採用により、「理学療法評価学実習」の教員配置を「助教2」から「講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「運動器系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、准教授1、助教1」から「教授1、准教授1、講師2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「神経系理学療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「内部障害系理学療法評価学演習」の教員配置を「助教3」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「リハビリテーション」の教員配置を「教授1、助教2」から「教授1、講師2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「運動療法学」の教員配置を「助教1」から「講師2、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅲ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動器系理学療法実習」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1、准教授1、講師1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「内部障害系理学療法実習」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教3」に変更。
- ・担当教員の採用により、「日常生活活動学実習」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「義肢装具学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「義肢装具学実習」の教員配置を「助教3」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「物理療法学」の教員配置を「助教3」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「小児理学療法学」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法演習Ⅳ」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授4、准教授1、講師3、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「理学療法特論」の教員配置を「教授5、准教授1、助教7」から「教授5、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の採用により、「リハビリテーション」の教員配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツリハビリテーション」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・担当教員の採用により、「予防理学療法学」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「見学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「地域理学療法学実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「検査測定実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「評価実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「総合臨床実習」の教員配置を「教授3、准教授1、助教7」から「教授2、准教授1、講師3、助教4」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「クリニカルリズニング」の配当年次と配当学期を「2年次・後期」から「3年次・後期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「理学療法治療学」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「3年次・前期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「運動療法学」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「3年次・前期」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
71 科目	61 科目	- 科目	132 科目	71 科目 [0]	61 科目 [0]	- 科目 [0]	132 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	山梨の自然と文化・産業	2	1・2前	一般	選択	山梨県知事が認定する「やまなし観光カレッジ修了事業」が終了となり開講が困難なため未開講とした。代替措置は、同じ総合基礎科目領域/共通基礎科目群に属する他の科目で単位数を修得できるため代替措置は行わない。なお、履修上の影響はない。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見：未開講となる科目は一般科目であり、同じ科目領域/科目群に属する他の科目で卒業に必要な単位数を修得できるため履修上の影響はない。

学生への周知方法：履修指導により周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{1}{132} = \boxed{0.75} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

<健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学コース>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1			2	1		4		兼3	
		基礎演習Ⅱ	1後	1		1	1		5		兼3		
		人権と法	1・2前	2								兼1	
		教育原理	1・2前	2		1						兼1	
		経済と経営	1・2後	2		1						兼1	
		現代医療史	1・2前	1								兼1	
		宗教学	1・2後	1		1						兼1	
		現代社会と倫理	1・2前	1		1						兼1	
		情報リテラシー	1前	1		1						兼1	
		基礎数学演習	1前	1								兼1	
		物理基礎	1前	1								兼1	
		化学基礎	1前	1								兼1	
		統計学	1後	2		1						兼1	
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前	2								兼1	
		人間学	1・2前	1		1						兼1	
		生命科学	1・2後	1								兼2	
		比較行動学	1・2後	2								兼1	
		山梨の自然と文化・産業	1・2前	2		1							
		富士山と環境	1・2後	2		1							
		生活健康学	1・2前	2								兼1	
		スポーツの理論と実際	1・2前・後	1		1							
	小計(21科目)			—	8	22	0	13	2	0	9	0	兼17
	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			3			1		兼3	
		発達心理学	1後	1	2							兼1	
		人間関係論	1前	1								兼1	
		コミュニケーション論	1・2後	1								兼1	
		世界の福祉	1・2前	2								兼1	
		点字の理論と実際	1・2前	2								兼1	
		手話の理論と実際	1・2前	2								兼1	
		異文化比較論	1・2前	1		2			1			兼1	
		共生学	1・2後	1								兼1	
		世界と対話	2通	2								兼1	
		地域連携の理論と実際	1・2後	2		1						兼1	
		ボランティア活動の実際	1・2通	1								兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後	1		1			1			兼1	
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後	1		1			1			兼1	
	人間基礎科目群 小計(14科目)			—	2	18	0	8	0	0	4	0	兼16
	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1						1		兼1	
		英語Ⅰ-2	1後	1						1		兼1	
		英語Ⅱ-1	2前	1						1		兼1	
		英語Ⅱ-2	2後	1						1		兼1	
		英語リーディング・ライティング	1・2後	1						1		兼1	
		英語コミュニケーション	1・2前	1						1		兼1	
		英語会話	1・2前・後	1						1		兼1	
		基礎韓国語	1・2前	1		1						兼1	
		基礎中国語	1・2前	1		1						兼1	
		はじめての韓国語会話	1・2後	1		1						兼1	
		はじめての中国語会話	1・2後	1		1						兼1	
	外国語科目群 小計(11科目)			—	4	7	0	4	0	0	7	0	兼6
	総合基礎科目領域 小計(46科目)			—	14	47	0	25	2	0	20	0	兼39
専門科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2			2						
		解剖学Ⅱ	1後	2		2							
		解剖学演習	1・2・3・4後	1	1		2			1			
		解剖学実習	1前	1		3							
		生理学	1前	2		1	1					兼1	
		生理学演習	1後	2		1	1					兼1	
		生理学実習	2前	1		1	1						
		運動学Ⅰ	1後	2					2				
		運動学Ⅱ	1前	2					2				
		運動学実習	2後	1					7				
		人間発達学	2後	2		2			1				
		病理学	1後	1		1							
		薬学	2後	1								兼1	
		栄養学	2後	2								兼1	
		公衆衛生学	1・2前	1								兼1	
		微生物学・免疫学	2・3後	2		1							
	基礎医学系 小計(16科目)			—	21	4	0	16	3	0	13	0	兼5
	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1								兼1	
		整形外科	2前	2								兼1	
		神経内科学	2前	2								兼1	
		小児科学	2前	1								兼1	
		内科学	2後	2								兼1	
		精神医学	2前	2								兼1	
		リハビリテーション医学	2後	1								兼1	
	臨床医学系 小計(7科目)			—	11	0	0	0	0	0	0	0	兼7

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総合基礎 科目領域	共通基礎 科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1		2		2	2		兼2	
		基礎演習Ⅱ	1後	1		1		3	2		兼2	
		人権と法	1・2前		2							兼1
		教育原理	1・2前		2							兼1
		経済と経営	1・2後		2							兼1
		現代医療史	1・2前		1							兼1
		宗教学	1・2後		1							兼1
		現代社会と倫理	1・2前		1							兼1
		情報リテラシー	1前		1							兼1
		基礎数学演習	1前		1							兼1
		物理基礎	1前		1							兼1
		化学基礎	1前		1		1					兼1
		統計学	1後		2							兼1
		心理学と心理的支援(心理学概論	1・2前		2							兼1
		人間学	1・2前		1							兼3
		生命科学	1・2後		1							兼2
		比較行動学	1・2後		2							兼1
		山梨の自然と文化・産業	1・2前		2		1					
		富士山と環境	1・2後		2		2					
		生活健康学	1・2前		2		1					
		スポーツの理論と実際	1・2前・後		1							兼1
	小計(21科目)	—		8	22	0	8	0	5	4	0	兼23
	人間基礎 科目群	健康科学論	1通	1			2	1			1	兼4
		発達心理学	1前		2							兼1
		人間関係論	1後		1							兼1
		コミュニケーション論	1・2後		1							兼1
		世界の福祉	1・2前		2							兼1
		点字の理論と実際	1・2前		2							兼1
		手話の理論と実際	1・2前		2							兼1
		異文化比較論	1・2前		1		1					兼2
		共生学	1・2後		1							兼1
		世界と対話	2通		2							兼1
		地域連携の理論と実際	1・2後		2		1					兼1
		ボランティア活動の実際	1・2通		1							兼1
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後		1		1		1			兼1
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後		1		1		1			兼1
	人間基礎科目群 小計(14科目)	—		2	18	0	6	1	2	1	0	兼18
	外国語科 目群	英語Ⅰ-1	1前		1							兼2
		英語Ⅰ-2	1後		1							兼2
		英語Ⅱ-1	2前		1							兼2
		英語Ⅱ-2	2後		1							兼2
		英語 リーディング・ライティング	1・2後		1							兼1
		英語 コミュニケーション	1・2前		1							兼1
		英語 会話	1・2前・後		1							兼1
		基礎韓国語	1・2前		1		1					兼1
		基礎中国語	1・2前		1		1					兼1
はじめての韓国語会話		1・2後		1		1					兼1	
はじめての中国語会話		1・2後		1		1					兼1	
外国語科目群 小計(11科目)		—		4	7	0	4	0	0	0	0	兼11
総合基礎科目領域 小計(46科目)		—		14	47	0	18	1	7	5	0	兼52
専門科目 領域	基礎医学 系	解剖学Ⅰ	1前		2		2					
		解剖学Ⅱ	1後		2		3					
		解剖学演習	1・2・3・4後		1		2		1			
		解剖学実習	1前		1		3					
		生理学	1前		2		1					
		生理学演習	1後		2		1					
		生理学実習	2前		1		1					兼1
		運動学Ⅰ	1前		2				1			
		運動学Ⅱ	2後		2					1		
		運動学実習	2後		1				1	1		
		人間発達学	1後		1							
		病理学	1後		1		1					
		薬学	2後		1							兼1
		栄養学	2後		2			1				
		公衆衛生学	1・2前		1							兼1
		微生物学・免疫学	2・3後		2		1					
	基礎医学系 小計(16科目)	—		21	4	0	16	0	3	3	0	兼3
	臨床医学 系	臨床医学総論	2前		1							兼1
		整形外科科学	2前		2							兼1
		神経内科学	2前		2			1				
		小児科学	2前		1							兼1
		内科学	2前		2			1				兼1
		精神医学	2前		2							兼1
リハビリテーション医学		2後		1								
臨床医学系 小計(7科目)	—		11	0	0	2	0	0	0	0	兼5	

科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置				兼 任 ・ 兼 担
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									兼1
		社会理論と社会システム	1・2前	2		1							
		社会保障論Ⅰ	1・2後	2		1							兼1
		就労支援サービス	2前	2									兼1
		精神保健学Ⅰ	2・3前	2									兼1
		精神保健学Ⅱ	2・3後	2									兼1
		高齢者福祉	2・3後	2									兼1
		介護福祉	2・3後	2									兼1
		障害者福祉	2・3後	2									兼1
	福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	2	0	0	0	0	0	兼8	
	臨床人間学系	臨床心理学	2前	2									兼1
		神経心理学	2後	2									兼1
		児童青年心理学	2・3前	2									兼1
		障害者心理学	2・3後	2									兼1
		社会心理学	2・3後	2									兼1
		臨床人間学スタディーズ	2・3前	2					1				兼2
		臨床社会学スタディーズ	2・3後	2		1							兼2
		ジェンダースタディーズ	2・3前	1									兼3
コミュニケーションスタディーズ		2・3後	1						1			兼2	
チーム医療演習	4後	1		1									
臨床人間学系 小計(10科目)	—	3	14	0	2	0	0	2	0	0	兼13		
専門基礎科目群 小計(42科目)		—	37	34	0	20	3	0	15	0	0	兼33	
専門科目領域	専門科目群	作業療法概論	1前	2			2				3		
		基礎作業学	1後	2							1		
		作業療法演習Ⅰ-1	2前	1			3		1	5			
		研究法概論	2後	1				1					
		基礎作業学演習	3後	1						2			
		卒業研究	4通		4		9	2	1	12			
		作業療法管理学	3後	2						1			
		作業療法評価学	1後	2		1			1	2			
		身体作業療法評価学演習	2前	2						2			
		精神作業療法評価学演習	2前	2		1				1			
		発達作業療法評価学演習	2後	1						1			
		日常生活評価学演習	2後	1					1				
		作業療法演習Ⅰ-2	2後	1		3		1	5				
		身体障害作業療法治療学	2後	2		1							
		精神障害作業療法治療学	2後	2		1							
		老年期作業療法学	3前	2					1				
		発達障害作業療法治療学演習	3前	1						1			
		高次脳機能障害治療学	3前	2		1							
		身体障害作業療法治療学演習	3前	2		1				1			
		精神障害作業療法治療学演習	3前	2		1							
		日常生活活動学演習	3前	1					1				
		作業療法演習Ⅱ-1	3前	1		3		1	5				
		作業療法演習Ⅱ-2	3後	1		3		1	5				
		義肢装具学	3後	2						2			
		作業療法学特論	4後	1		3		1	5				
		スポーツ医学	3後		1								兼1
		スポーツリハビリテーション学	4後	2		1				1			
		マニュアルセラピー	3前		2			1					
		地域生活支援学	3前	2							1		
		地域作業療法学	3前	2							1		
		生活環境学演習	3後		1						1		
		臨床実習Ⅰ(見学実習)	1後	1		3		1	5				
		臨床実習Ⅱ(地域実習)	3後	1		3		1	5				
		臨床実習Ⅲ(評価実習)	3後	5		3		1	5				
		臨床実習Ⅳ(総合実習)	4前	9		3		1	5				
		臨床実習Ⅴ(総合実習)	4通	9		3		1	5				
専門科目群 小計(30科目)		—	66	10	0	49	4	15	83	0	0		
専門科目領域 小計(78科目)		—	103	44	0	69	7	15	98	0	0	兼1	
合計(124科目)		—	117	91	0	94	9	15	118	0	0	兼73	
卒業要件及び履修方法													
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))													
<作業療法学コース>													
総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)													
専門基礎科目105単位以上(必修37単位および選択必修1単位、													
専門科目(必修66単位および自由選択1単位以上)													

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置						兼任・兼担		
				必修	選択	自由	教員	准教授	講師	助教	助手					
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前		2										兼1	
		社会理論と社会システム	1・2前		2										兼1	
		社会保障論Ⅰ	1・2後		2										兼1	
		就労支援サービス	2前	2											兼1	
		精神保健学Ⅰ	2・3前		2										兼1	
		精神保健学Ⅱ	2・3後		2										兼1	
		高齢者福祉	2・3後		2										兼1	
		介護福祉	2・3後		2										兼1	
		障害者福祉	2・3後		2										兼1	
		福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼9	
	臨床人間学系	臨床心理学	2前		2										兼1	
		神経心理学	2後		2										兼1	
		児童青年心理学	2・3前		2										兼1	
		障害者心理学	2・3後		2										兼1	
		社会心理学	2・3後		2										兼1	
		臨床人間学スタディーズ	2・3前		2						1				兼2	
		臨床社会学スタディーズ	2・3後		2										兼3	
		ジェンダースタディーズ	2・3前		1			1		1					兼3	
		コミュニケーションスタディーズ	2・3後		1										兼3	
		チーム医療演習	4後	1				2		2					兼4	
	臨床人間学系 小計(10科目)		—	1	16	0	3	0	3	1	0	0	0	兼18		
	専門基礎科目群 小計(42科目)		—	35	36	0	21	0	6	4	0	0	0	兼35		
	専門科目領域	専門科目群	作業療法概論	1前		2			1	1	1		3			
			基礎作業学	1後		2					1	1				
			作業療法演習Ⅰ-1	2前		1				2	1	2	3			
研究法概論			2後		1				1							
基礎作業学演習			3後	1					1			2				
卒業研究			4通		4			2	1	2	3					
作業療法管理学			3後	2						1	1					
作業療法評価学			1後	2						1	2					
身体作業療法評価学演習			2前	2						1	2					
精神作業療法評価学演習			2前	2			1	1							兼1	
発達作業療法評価学演習			2後	1								1				
日常生活評価学演習			2後	1					1							
作業療法演習Ⅰ-2			2後	1				2	1	2	3					
身体障害作業療法治療学			2後	2			1									
精神障害作業療法治療学			2後	2											兼1	
老年期作業療法学			3前	2					1							
発達障害作業療法治療学演習			3前	1								1				
高次脳機能障害治療学			3前	2			1									
身体障害作業療法治療学演習			3前	2			1				1	2				
精神障害作業療法治療学演習			3前	2											兼2	
日常生活活動学演習			3前	1					1							
作業療法演習Ⅱ-1			3前	1				2	1	2	3					
作業療法演習Ⅱ-2			3後	1				2	1	2	3					
義肢装具学			3後	2								2				
作業療法学特論			4後	1				2	1	2	2					
スポーツ医学		3後		1										兼1		
スポーツリハビリテーション学		4後		2		1			1							
マニュアルセラピー		3前		2					1							
地域生活支援学		3前	2							1						
地域作業療法学		3前	2							1						
生活環境学演習		3後		1						1						
専門科目群		臨床実習Ⅰ(見学実習)	1後	1				2	1	2	3					
		臨床実習Ⅱ(地域実習)	3後	1				2	1	2	3					
		臨床実習Ⅲ(評価実習)	3後	5				2	1	2	3					
		臨床実習Ⅳ(総合実習)	4前	9				2	1	2	3					
		臨床実習Ⅴ(総合実習)	4通	9				2	1	2	3					
		専門科目群 小計(35科目)		—	66	10	0	29	18	32	48	0	0	0	兼5	
		専門科目領域 小計(84科目)		—	101	46	0	50	18	38	52	0	0	0	兼40	
	合計(130科目)		—	115	93	0	68	19	45	57	0	0	0	兼82		
	卒業要件及び履修方法															
	本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))															
	<作業療法学コース>															
	総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)															
	専門基礎科目105単位以上(必修37単位および選択必修1単位、自由選択68単位以上)															
専門科目(必修66単位および自由選択1単位以上)																

【令和5年度】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1前	1			2	1		2	2		兼2
		基礎演習Ⅱ	1後	1			1	1	2	3		兼2	
		人権と法	1・2前		2								兼1
		教育原理	1・2前		2								兼1
		経済と経営	1・2後		2								兼1
		現代医療史	1・2前		1		1						
		宗教学	1・2後		1								兼1
		現代社会と倫理	1・2前		1								兼1
		情報リテラシー	1前	1									兼1
		基礎数学演習	1前	1									兼1
		物理基礎	1前	1									兼1
		化学基礎	1前	1									兼1
		統計学	1後	2									兼1
		心理学と心理的支援(心理学概論)	1・2前		2								兼1
		人間学	1・2前		1		1						兼2
		生命学	1・2後		1								兼2
		比較行動学	1・2後		2								兼1
		山梨の自然と文化・産業	1・2前		2			1					
		富士山と環境	1・2後		2			1					
		生活健康学	1・2前		2			1					
		スポーツの理論と実際	1・2前・後		1								兼1
		小計(21科目)		—	8	22	0	8	2	4	5	0	兼20
	人間基礎科目群	健康科学論	1通	1			2				2		兼4
		発達心理学	1後		2								兼1
		人間関係論	1前	1									兼2
		コミュニケーション論	1・2後		1								兼1
		世界の福祉	1・2前		2								兼1
		点字の理論と実際	1・2前		2								兼1
		手話の理論と実際	1・2前		2								兼1
		異文化比較論	1・2前		1		1						兼3
		共生学	1・2後		1								兼1
		世界と対話	2通		2								兼1
		地域連携の理論と実際	1・2後		2		1						兼1
		ボランティア活動の実際	1・2通		1								兼1
		リハビリテーション特別講義Ⅰ	1・2後		1		1		1				兼1
		リハビリテーション特別講義Ⅱ	1・2後		1		1		1				兼1
	人間基礎科目群 小計(14科目)	—	2	18	0	6	0	2	2	0	兼20		
	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1前	1									兼2
		英語Ⅰ-2	1後	1									兼2
		英語Ⅱ-1	2前	1									兼2
		英語Ⅱ-2	2後	1									兼2
		英語リーディング・ライティング	1・2後		1								兼1
		英語コミュニケーション	1・2前		1								兼1
		英語会話	1・2前・後		1								兼1
		基礎韓国語	1・2前		1		1						
		基礎中国語	1・2前		1		1						
はじめての韓国語会話		1・2後		1		1							
はじめての中国語会話		1・2後		1									
外国語科目群 小計(11科目)		—	4	7	0	4	0	0	0	0	兼11		
総合基礎科目領域 小計(46科目)			—	14	47	0	18	2	6	7	0	兼51	
専門科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1前	2			2						
		解剖学Ⅱ	1後	2			2						
		解剖学演習	1・2・3・4後		1		2		1				
		解剖学実習	1前	1			3						
		生理学	1前	2			1	1					
		生理学演習	1後	2			1	1					
		生理学実習	2前	1			1	1					
		運動学Ⅰ	1後	2					1	1			兼1
		運動学Ⅱ	2前	2						1	1		兼1
		運動学実習	2前	1					2	4			
		人間発達学	2前	2							1		
		病理学	1後	1			1						
		薬学	2後	1									兼1
		栄養学	2後	2			1						
		公衆衛生学	1・2前		1								兼1
		微生物学・免疫学	2・3後	2			1						
		基礎医学系 小計(16科目)	—	21	4	0	16	3	4	7	0	兼4	
	臨床医学系	臨床医学総論	2前	1									兼1
		整形外科	2前	2			1						
		神経内科学	2前	2			1						
		小児科学	2前	1									兼1
		内科学	2後	2			1						
		精神医学	2前	2									兼1
		リハビリテーション医学	2後	1			1						
	臨床医学系 小計(7科目)	—	11	0	0	4	0	0	0	0			

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目群	福祉学系	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2									兼1
		社会理論と社会システム	1・2前	2									兼1
		社会保障論Ⅰ	1・2後	2									兼1
		就労支援サービス	2前	2									兼1
		精神保健学Ⅰ	2・3前	2									兼1
		精神保健学Ⅱ	2・3後	2									兼1
		高齢者福祉	2・3後	2									兼1
		介護福祉	2・3後	2									兼1
		障害者福祉	2・3後	2									兼1
	福祉学系 小計(9科目)	—	2	16	0	0	0	0	0	0	0	兼8	
	臨床人間学系	臨床心理学	2前	2									兼1
		神経心理学	2後	2									兼1
		児童青年心理学	2・3前	2									兼1
		障害者心理学	2・3後	2									兼1
		社会心理学	2・3後	2									兼1
		臨床人間学スタディーズ	2・3前	2									兼3
		臨床社会学スタディーズ	2・3後	2									兼3
		ジェンダースタディーズ	2・3前	1		1		1					兼1
		コミュニケーションスタディーズ	2・3後	1									兼3
		チーム医療演習	4後	1			2			2			兼4
臨床人間学系 小計(10科目)		—	1	16	0	3	0	1	2	0	0	兼19	
専門基礎科目群 小計(42科目)		—	35	36	0	23	3	5	9	0	0	兼34	
専門科目領域	専門科目群	作業療法概論	1前	2			1		1	3			兼1
		基礎作業学	1後	2					1		3		
		作業療法演習Ⅰ-1	2前	1			2		2	3			
		研究法概論	2後	1				1					
		基礎作業学演習	3後	1					1	1			兼1
		卒業研究	4通	4			6	2	3	9			
		作業療法管理学	3後	2						2			
		作業療法評価学	1後	2					1				
		身体作業療法評価学演習	2前	2						2			兼1
		精神作業療法評価学演習	2前	2									
		発達作業療法評価学演習	2後	1					1				
		日常生活評価学演習	2後	1					1				
		作業療法演習Ⅰ-2	2後	1			2		2	3			兼1
		身体障害作業療法治療学	2後	2			1						
		精神障害作業療法治療学	2後	2									
		老年期作業療法学	3前	2					1				
		発達障害作業療法治療学演習	3前	1						1			兼1
		高次脳機能障害治療学	3前	2			1						
		身体障害作業療法治療学演習	3前	2			1			2			
		精神障害作業療法治療学演習	3前	2									
		日常生活活動学演習	3前	1					1				兼1
		作業療法演習Ⅱ-1	3前	1			2		2	3			
		作業療法演習Ⅱ-2	3後	1			2		2	3			
		義肢装具学	3後	2						2			
		作業療法学特論	4後	1			2		2	3			兼1
		スポーツ医学	3後	1			1						
		スポーツリハビリテーション学	4後	2			1						
		マニュアルセラピー	3前	2				1					
		地域生活支援学	3前	2						1			兼1
		地域作業療法学	3前	2						1			
		生活環境学演習	3後	1						1			
		臨床実習Ⅰ(見学実習)	1後	1			2		2	5			
		臨床実習Ⅱ(地域実習)	3後	1			2		2	5			兼1
		臨床実習Ⅲ(評価実習)	3後	5			2		2	5			
		臨床実習Ⅳ(総合実習)	4前	9			2		2	5			
		臨床実習Ⅴ(総合実習)	4通	9			2		2	5			
専門科目群 小計(35科目)		—	66	10	0	32	4	30	66	0	0	兼4	
専門科目領域 小計(84科目)		—	101	46	0	55	7	35	75	0	0	兼38	
合計(130科目)		—	115	93	0	73	9	41	82	0	0	兼90	
卒業要件及び履修方法													
本学に4年以上在学し、下記の基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から各専攻が定める科目を履修し、計130単位以上を履修すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))													
<作業療法学コース>													
総合基礎科目25単位以上(必修14単位および選択必修1単位、自由選択10単位以上)													
専門基礎科目105単位以上(必修37単位および選択必修1単位、													
専門科目(必修66単位および自由選択1単位以上)													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「**臨床実務実習**」による授業科目には「**【臨】**」、「**連携実務演習**」による授業科目には「**【連】**」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例:記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、准教授1、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、准教授1、講師2、助教3、兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「現代医療史」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間関係論」の教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語 リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「英語 コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「人間発達学」の教員配置を「教授2、兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅰ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「整形外科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「リハビリテーション医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床人間学スタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、助教2、兼任4」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法概論」の教員配置を「教授2、助教3」から「教授1、講師1、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授6、准教授2、講師3、助教9」に変更。
- ・専門性の深化のため、「作業療法管理学」の教員配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・担当教員の退職により、「精神作業療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「精神障害作業療法治療学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「身体障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職により、「精神障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法特論」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「スポーツ医学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅰ（見学実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅱ（地域実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅲ（評価実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅳ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職、採用、職位変更により、「臨床実習Ⅴ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、講師2、助教5」に変更。

【令和6年度】

- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1、助教4、兼任3」から「教授2、講師2、助教2、兼任2」に変更。
- ・担当教員の退職、採用により、「基礎演習Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教5、兼任3」から「教授1、講師3、助教2、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「教育原理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「経済と経営」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「宗教学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「現代社会と倫理」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「情報リテラシー」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「化学基礎」の教員配置を「兼任1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「統計学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間学」の教員配置を「教授1、兼1」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「富士山と環境」の教員配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「生活健康学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツの理論と実際」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「健康科学論」の教員配置を「教授3、助教1、兼任3」から「教授2、准教授1、助教1、兼任4」に変更。
- ・専門性の深化のため、「異文化比較論」の教員配置を「教授2、助教1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「地域連携の理論と実際」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅰ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「リハビリテーション特別講義Ⅱ」の教員配置を「教授1、助教1、兼任1」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅰ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-1」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語Ⅱ-2」の教員配置を「助教1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語 リーディング・ライティング」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語 コミュニケーション」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「英語 会話」の教員配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学Ⅱ」の教員配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「解剖学演習」の教員配置を「教授2、助教1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅰ」の教員配置を「助教2」から「講師1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学Ⅱ」の教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「運動学実習」の教員配置を「助教7」から「講師1、助教1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「人間発達学」の教員配置を「教授2、助教1」から「助教1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「栄養学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「神経内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「内科学」の教員配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の配置転換により、「社会学論と社会システム」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「臨床社会学スタディーズ」の教員配置を「教授1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「ジェンダースタディーズ」の教員配置を「兼任3」から「教授1、講師1、兼任1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「コミュニケーションスタディーズ」の教員配置を「助教1、兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「チーム医療演習」の教員配置を「教授1」から「教授2、講師2、兼任4」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「作業療法概論」の教員配置を「教授2、助教3」から「教授1、准教授1、講師1、助教3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「基礎作業学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「作業療法演習Ⅰ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の退職により、「研究法概論」の教員配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「基礎作業療法学演習」の教員配置を「助教2」から「准教授1、助教2」に変更。
- ・担当教員の退職、職位変更により、「卒業研究」の教員配置を「教授9、准教授2、講師1、助教12」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「作業療法管理学」の教員配置を「助教1」から「講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「身体作業療法評価学演習」の教員配置を「助教2」から「講師1、助教2」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「精神作業療法評価学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、准教授1、兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「日常生活評価学演習」の教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員の退職により、「作業療法演習Ⅰ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・専門性の深化のため、「精神障害作業療法治療学」の教員配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「老年期作業療法学」の教員配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専門性の深化のため、「身体障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、講師1、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「精神障害作業療法治療学演習」の教員配置を「教授1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「作業療法演習Ⅱ-1」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「作業療法演習Ⅱ-2」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教3」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「作業療法特論」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教2」に変更。
- ・専門性の深化のため、「スポーツリハビリテーション学」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「地域生活支援学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「地域作業療法学」の教員配置を「助教1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「臨床実習Ⅰ（見学実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「臨床実習Ⅱ（地域実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「臨床実習Ⅲ（評価実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「臨床実習Ⅳ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の職位変更により、「臨床実習Ⅴ（総合実習）」の教員配置を「教授3、講師1、助教5」から「教授2、准教授1、講師2、助教4」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「内科学」の配当年次と配当学期を「2年次・後期」から「2年次・前期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「人間発達学」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「1年次・後期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「運動学Ⅰ」の配当年次と配当学期を「1年次・後期」から「1年次・前期」に変更。
- ・教育上の効果向上のため、「運動学Ⅱ」の配当年次と配当学期を「2年次・前期」から「1年次・後期」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
67 科目	58 科目	- 科目	125 科目	67 科目 [0]	58 科目 [0]	- 科目 [0]	125 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	山梨の自然と文化・産業	2	1・2前	一般	選択	山梨県知事が認定する「やまなし観光カレッジ修了事業」が終了となり開講が困難なため未開講とした。代替措置は、同じ総合基礎科目領域/共通基礎科目群に属する他の科目で単位数を修得できるため代替措置は行わない。なお、履修上の影響はない。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見：未開講となる科目は一般科目であり、同じ科目領域/科目群に属する他の科目で卒業に必要な単位数を修得できるため履修上の影響はない。
 学生への周知方法：履修指導により周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{1}{125} = \boxed{0.8} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	75,674.91 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	75,674.91 m ²			
	運動場用地	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²			
	小 計	75,674.91 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	75,674.91 m ²			
	そ の 他	13,733.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	13,733.00 m ²			
	合 計	89,407.91 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	89,407.91 m ²			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	18,494.34 m ² (18,494.34 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	18,494.34 m ² (18,494.34 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	12 室	14 室	7 室	2 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	健康科学部 リハビリテーション学科			40 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部全体でカウント。 ※学術雑誌について、 過去に購読や寄贈で受 け入れていたバックナ ンバー34種〔2種〕を 含んでいる。 ※電子ジャーナルにつ いて、「メディカルオ ンライン」配信サービ スを契約し、収録され ているタイトル 1,648+623種〔1種〕 を含んでいる。 図書等の新規受入並び に廃棄のため(6)
	健康科学部	38,726 [2,589] (39,536 [2,590]) 40,401 [2,594]	70 [3] (32 [3]) (30 [3])	1,580 [1] (1,623 [1]) (1,648 [1])	1,881 (1,883) (1,922)	2,099 (1,930) (1,930)	90 (91) (91)	
	計	38,726 [2,589] (39,536 [2,590]) (40,401 [2,594])	70 [3] (32 [3]) (30 [3])	1,580 [1] (1,623 [1]) (1,648 [1])	1,881 (1,883) (1,922)	2,099 (1,930) (1,930)	90 (91) (91)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	1,255.9 m ²		118 席		30,000 冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	m ²							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	千円	2,580 千円	2,580 千円
		共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	千円	1,516 千円	1,349 千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,600千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	- 千円	- 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金、寄付金						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	健 康 科 学 大 学									収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考		
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度				
健康科学部	4	120	3年次 5	730	-			-	平成15	-			
リハビリテーショ ン学科	4	120	0	240	-	0.68		-	令和5	山梨県南都留郡 富士河口湖町小 立7187			
理学療法学コース	4	80	0	160	学士 (理学療法)	0.68	-	-	令和5	同上			
作業療法学コース	4	40	0	80	学士 (作業療法)	0.69	-	-	令和5	同上			
理学療法学科	4	80	-	160	学士 (理学療法)	-	-	-	平成15	同上	令和5年度入学生より学生募集停止		
作業療法学科	4	40	-	80	学士 (作業療法)	-	-	-	平成15	同上	令和5年度入学生より学生募集停止		
人間コミュニケー ション学科	4	60	3年次 5	185	学士 (福祉心理学)	0.54	-		平成15	同上			
福祉心理学科	4	60	3年次 5	65	学士 (福祉心理学)	0.51	-		平成15	同上	令和3年度より学科名称変更		
看護学部	4	80	0	320	-	0.72	-	-	平成28	-			
看護学科	4	80	0	320	学士 (看護学)	0.72	-	-	平成28	山梨県都留市四 日市場909-2			
大学全体	4	240	3年次 10	1,050	-	0.68	-	-	-	-			

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<健康科学部 リハビリテーション学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小沢 健一 () <令和5年4月> 修士(医科学)	健康科学論 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法評価学 作業療法演習Ⅰ-2 身体障害作業療法治療学 高次脳機能障害治療学 身体障害作業療法治療学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(地域実習) 臨床実習Ⅲ(評価実習) 臨床実習Ⅳ(総合実習) 臨床実習Ⅴ(総合実習)
専	教授 (学科長)	粕山 達也 () <令和5年4月> 博士(保健学)	人間発達学 チーム医療演習 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 運動器系理学療法評価学演習 理学療法治療学 理学療法演習Ⅲ 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 スポーツリハビリテーション学 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	教授 (図書館長)	坂本 宏史 () <令和5年4月> 博士(医学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 山梨の自然と文化・産業 地域連携の理論と実際 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 解剖学実習 臨床社会学スタディーズ 卒業研究 理学療法特論

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小沢 健一 () <令和5年4月> 修士(医科学)	チーム医療演習 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法評価学 作業療法演習Ⅰ-2 身体障害作業療法治療学 高次脳機能障害治療学 身体障害作業療法治療学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(地域実習) 臨床実習Ⅲ(評価実習) 臨床実習Ⅳ(総合実習) 臨床実習Ⅴ(総合実習)
専	教授 (学科長)	粕山 達也 () <令和5年4月> 博士(保健学)	健康科学論 人間発達学 チーム医療演習 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 運動器系理学療法評価学演習 理学療法治療学 理学療法演習Ⅲ 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 スポーツリハビリテーション学 予防理学療法学 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	教授 (図書館長)	坂本 宏史 () <令和5年4月> 博士(医学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 山梨の自然と文化・産業 地域連携の理論と実際 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 解剖学実習 ジェンダースタディーズ 卒業研究 理学療法特論

【令和6年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小沢 健一 () <令和5年4月> 修士(医科学)	チーム医療演習 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 精神作業療法評価学演習 作業療法演習Ⅰ-2 身体障害作業療法治療学 高次脳機能障害治療学 身体障害作業療法治療学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(地域実習) 臨床実習Ⅲ(評価実習) 臨床実習Ⅳ(総合実習) 臨床実習Ⅴ(総合実習)
専	教授 (学科長)	粕山 達也 () <令和5年4月> 博士(保健学)	健康科学論 人間発達学 チーム医療演習 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 運動器系理学療法評価学演習 理学療法治療学 理学療法演習Ⅲ 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 スポーツリハビリテーション学 予防理学療法学 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	教授 (図書館長)	坂本 宏史 () <令和5年4月> 博士(医学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 化学基礎 山梨の自然と文化・産業 富士山と環境 地域連携の理論と実際 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 解剖学実習 ジェンダースタディーズ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法特論 理学療法演習Ⅳ

専	教授	志茂 聡 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
		富士山と環境 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 解剖学実習 卒業研究 作業療法演習Ⅰ-1 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ（見学実習） 臨床実習Ⅱ（地域実習） 臨床実習Ⅲ（評価実習） 臨床実習Ⅳ（総合実習） 臨床実習Ⅴ（総合実習）
専	教授	成 昌燮 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
		異文化比較論 基礎韓国語 基礎中国語 はじめての韓国語会話 はじめての中国語会話 病理学 解剖学実習
専	教授 (学部長)	高村 浩司 () 〈令和5年4月1日〉 専門学校卒
		理学療法概論 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 臨床運動学 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 神経系理学療法評価学演習 クリニカルリーズニング 理学療法演習Ⅲ 理学療法演習Ⅳ 神経系理学療法実習 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	教授	田中 将志 () 〈令和5年4月1日〉 博士（理学）
		健康科学論 生理学 生理学演習 生理学実習 微生物学・免疫学 卒業研究 理学療法特論
専	教授	保坂 稔 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
専	教授	升 佑二郎 () 〈令和5年4月1日〉 博士（体育科学）
		教育原理 情報リテラシー 統計学 スポーツの理論と実際 卒業研究 理学療法特論

専	教授	志茂 聡 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
		富士山と環境 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 解剖学実習 卒業研究 作業療法演習Ⅰ-1 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ（見学実習） 臨床実習Ⅱ（地域実習） 臨床実習Ⅲ（評価実習） 臨床実習Ⅳ（総合実習） 臨床実習Ⅴ（総合実習）
専	教授	成 昌燮 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
		異文化比較論 基礎韓国語 基礎中国語 はじめての韓国語会話 はじめての中国語会話 病理学 解剖学実習 理学療法概論
専	教授 (学部長)	高村 浩司 () 〈令和5年4月1日〉 専門学校卒
		理学療法概論 臨床運動学 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 神経系理学療法評価学演習 クリニカルリーズニング 神経系理学療法実習 理学療法特論
専	教授	田中 将志 () 〈令和5年4月1日〉 博士（理学）
		生理学 生理学演習 生理学実習 微生物学・免疫学 卒業研究 理学療法特論
専	教授	保坂 稔 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
兼担	教授	升 佑二郎 () 〈令和5年4月1日〉 博士（体育科学）
		教育原理 情報リテラシー 統計学 スポーツの理論と実際

専	教授	志茂 聡 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
		富士山と環境 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 解剖学実習 卒業研究 作業療法演習Ⅰ-1 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 研究法概論 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ（見学実習） 臨床実習Ⅱ（地域実習） 臨床実習Ⅲ（評価実習） 臨床実習Ⅳ（総合実習） 臨床実習Ⅴ（総合実習）
専	教授	成 昌燮 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
		異文化比較論 基礎韓国語 基礎中国語 はじめての韓国語会話 はじめての中国語会話 病理学 解剖学Ⅱ 解剖学実習 卒業研究
専	教授 (学部長)	高村 浩司 () 〈令和5年4月1日〉 専門学校卒
		理学療法概論 卒業研究 臨床運動学 神経系理学療法評価学演習 クリニカルリーズニング 神経系理学療法実習 理学療法特論
専	教授	田中 将志 () 〈令和5年4月1日〉 博士（理学）
		生理学 生理学演習 生理学実習 微生物学・免疫学 卒業研究 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論
専	教授	保坂 稔 () 〈令和5年4月1日〉 博士（医学）
兼担	教授	升 佑二郎 () 〈令和5年4月1日〉 博士（体育科学）
		教育原理 情報リテラシー 統計学 スポーツの理論と実際

専	教授	松崎 昇 〈令和5年4月1日〉 () 博士 (経済学)
		経済と経営 人間学 現代社会と倫理 社会理論と社会システム 異文化比較論 社会保障論Ⅰ 卒業研究
専	教授	三科 貴博 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (学術)
		基礎演習Ⅰ 健康科学論 リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 人間発達学 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法管理学 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 小児理学療法学 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 地域理学療法学 予防理学療法学 見学実習 地域理学療法学実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	教授	幸 信歩 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (学術)
		作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法評価学 身体障害作業療法治療学演習 作業療法演習Ⅰ-2 身体障害作業療法治療学 高次脳機能障害治療学 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)
専	准教授	稲場 直子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 生理学 生理学演習 生理学実習 研究法概論 卒業研究

兼任	教授	松崎 昇 〈令和5年4月1日〉 () 博士 (経済学)
		経済と経営 宗教学 人間学 現代社会と倫理 社会理論と社会システム 異文化比較論
専	教授	三科 貴博 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (学術)
		基礎演習Ⅰ 健康科学論 リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法管理学 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 物理療法学 小児理学療法学 理学療法特論 地域理学療法学 予防理学療法学 見学実習 地域理学療法学実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	准教授	稲場 直子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 生理学 生理学演習 生理学実習 研究法概論 卒業研究

兼任	教授	松崎 昇 〈令和5年4月1日〉 () 博士 (経済学)
		経済と経営 宗教学 人間学 生命学 現代社会と倫理 異文化比較論
専	教授	三科 貴博 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (学術)
		基礎演習Ⅰ 健康科学論 リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法管理学 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 物理療法学 小児理学療法学 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 地域理学療法学 予防理学療法学 見学実習 地域理学療法学実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	准教授	

専	准教授	関口 賢人 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (保健医療学)	専	准教授	関口 賢人 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (保健医療学)	専	准教授	関口 賢人 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (保健医療学)
		理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 運動解剖学 臨床運動学 卒業研究 運動器系理学療法評価学演習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 マニュアルセラピー 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習			理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 運動解剖学 臨床運動学 卒業研究 運動器系理学療法評価学演習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 マニュアルセラピー 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習			理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 運動解剖学 臨床運動学 卒業研究 運動器系理学療法評価学演習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 マニュアルセラピー 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
		榎田 哲弥 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (国際協力学)			榎田 哲弥 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (国際協力学)			榎田 哲弥 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (国際協力学)
専	講師	作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 基礎作業学演習 卒業研究 作業療法評価学 精神作業療法評価学演習 日常生活評価学演習 作業療法演習Ⅰ-2 老年期作業療法学 日常生活活動学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)	専	講師	作業療法概論 基礎作業学 作業療法演習Ⅰ-1 基礎作業学演習 卒業研究 日常生活評価学演習 作業療法演習Ⅰ-2 老年期作業療法学 日常生活活動学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)	専	准教授	健康科学論 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 基礎作業学演習 卒業研究 精神作業療法評価学演習 日常生活評価学演習 作業療法演習Ⅰ-2 老年期作業療法学 日常生活活動学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)
専	講師	源 裕介 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)	専	講師	源 裕介 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)	専	講師	源 裕介 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		基礎演習Ⅱ 運動学Ⅰ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 運動療法学 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅲ 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 スポーツリハビリテーション学 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習			基礎演習Ⅱ 運動学Ⅰ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 運動療法学 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 運動器系理学療法評価学演習 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅲ 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 スポーツリハビリテーション学 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習			基礎演習Ⅱ 運動学Ⅰ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 運動療法学 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 運動器系理学療法評価学演習 運動器系理学療法実習 理学療法演習Ⅲ 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 スポーツリハビリテーション学 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習

専	助教	浅野 克俊 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)	専	助教	浅野 克俊 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)	専	講師	浅野 克俊 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)
		運動学実習 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 身体作業療法評価学演習 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 義肢装具学 作業療法学特論 地域生活支援学 地域作業療法学 生活環境学演習 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)			健康科学論 予一ム医療演習 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法管理学 身体作業療法評価学演習 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 義肢装具学 作業療法学特論 地域生活支援学 地域作業療法学 生活環境学演習 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)			予一ム医療演習 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法管理学 身体作業療法評価学演習 作業療法演習Ⅰ-2 身体障害作業療法治療学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 地域生活支援学 地域作業療法学 生活環境学演習 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)
		甘利 貴志 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)			甘利 貴志 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)			
専	助教	基礎演習Ⅰ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 理学療法研究法 卒業研究 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 内部障害系理学療法評価学演習 クリニカルリレーズニング 運動療法学 理学療法演習Ⅲ 内部障害系理学療法実習 日常生活活動学実習 義肢装具学実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習	専	助教	理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 理学療法研究法 卒業研究 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 内部障害系理学療法評価学演習 クリニカルリレーズニング 運動療法学 理学療法演習Ⅲ 内部障害系理学療法実習 日常生活活動学実習 義肢装具学 義肢装具学実習 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 予防理学療法学 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習	専	助教	
					石井 智也 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (学術)			石井 智也 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (学術)
					基礎演習Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習 バイオメカニクス 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 理学療法研究法 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 物理療法学 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習			基礎演習Ⅰ 生理学実習 運動学Ⅱ 運動学実習 バイオメカニクス 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法研究法 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 理学療法演習Ⅲ 物理療法学 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習

専	助教	小川 麻里子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)	専	講師	小川 麻里子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)	専	講師	小川 麻里子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 解剖学演習 臨床人間学スタディーズ 基礎作業学 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法管理学 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 義肢装具学 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)			基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 解剖学演習 運動学実習 ジェンダースタディーズ 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法評価学 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)			基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 解剖学演習 運動学実習 ジェンダースタディーズ 基礎作業学 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法評価学 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)
		海保 (高橋) 享代 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (体育科学)			海保 (高橋) 享代 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (体育科学)			海保 (高橋) 享代 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (体育科学)
専	助教	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)	専	助教	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法演習Ⅰ-2 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法学特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)	専	助教	
		駒形 純也 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医科学)						
		基礎演習Ⅱ 運動学実習 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 神経系理学療法評価学演習 理学療法演習Ⅲ 神経系理学療法実習 義肢装具学実習 物理療法学 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習						

専	助教	元山 美緒 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医療科学)	基礎演習Ⅰ 運動学Ⅱ 理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 内部障害系理学療法評価学演習 内部障害系理学療法実習 理学療法演習Ⅲ 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	助教	渡辺 俊太郎 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (教育学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 健康科学論 人間発達学 作業療法概論 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法評価学 発達作業療法評価学演習 作業療法演習Ⅱ-2 発達障害作業療法治療学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)
兼担	教授	井上 美奈子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (教育経営と統率)	生命学 異文化比較論 英語Ⅰ-1 英語Ⅰ-2 英語Ⅱ-1 英語Ⅱ-2
専	助教	元山 美緒 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医療科学)	理学療法演習Ⅰ-1 理学療法演習Ⅰ-2 卒業研究 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 内部障害系理学療法評価学演習 内部障害系理学療法実習 運動療法学 理学療法演習Ⅲ 理学療法演習Ⅳ 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	助教	福田 京佑 () 〈令和6年4月1日〉 修士 (リハビリテーション学)	卒業研究 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法演習Ⅱ-1 理学療法演習Ⅱ-2 運動療法学 義肢装具学 義肢装具学実習 内部障害系理学療法実習 理学療法特論 見学実習 地域理学療法実習 検査測定実習 評価実習 総合臨床実習
専	助教	渡辺 俊太郎 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (教育学)	健康科学論 人間発達学 作業療法概論 基礎作業学演習 作業療法演習Ⅰ-1 卒業研究 作業療法管理学 作業療法評価学 発達作業療法評価学演習 作業療法演習Ⅱ-2 発達障害作業療法治療学演習 作業療法演習Ⅱ-1 作業療法演習Ⅱ-2 作業療法特論 臨床実習Ⅰ (見学実習) 臨床実習Ⅱ (地域実習) 臨床実習Ⅲ (評価実習) 臨床実習Ⅳ (総合実習) 臨床実習Ⅴ (総合実習)
兼担	教授	井上 美奈子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (教育経営と統率)	英語Ⅰ-1 英語Ⅰ-2 英語Ⅱ-1 英語Ⅱ-2

兼担	教授	宇賀 美奈子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		基礎数学演習 生命学 生理学演習 生理学実習 臨床人間学スタディーズ 臨床社会学スタディーズ ジェンダースタディーズ
兼担	教授	鈴木 真吾 () 〈令和5年4月1日〉 修士※ (心理学)
		人間関係論 臨床人間学スタディーズ 臨床社会学スタディーズ ジェンダースタディーズ コミュニケーションスタディーズ
兼担	教授	山本 泰宏 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		現代医療史 人間学 整形外科 リハビリテーション医学 スポーツ医学
兼担	特任教授	永井 正則 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		生活健康学 栄養学
兼担	特任教授	竹川 正純 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		神経内科学 内科学
兼担	准教授	梅沢 佳裕 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (社会福祉学)
		社会保障論 I 高齢者福祉 介護福祉

兼担	教授	宇賀 美奈子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		基礎演習 I 基礎演習 II 基礎数学演習 生命学 臨床人間学スタディーズ 臨床社会学スタディーズ ジェンダースタディーズ コミュニケーションスタディーズ
兼担	教授	鈴木 真吾 () 〈令和5年4月1日〉 修士※ (心理学)
		人間関係論 臨床人間学スタディーズ 臨床社会学スタディーズ コミュニケーションスタディーズ チーム医療演習
専	教授 (副学 長)	山本 泰宏 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		現代医療史 人間学 整形外科 リハビリテーション医学 スポーツ医学
専	特任教授	永井 正則 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		生活健康学 栄養学
専	特任教授	竹川 正純 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		神経内科学 内科学

兼担	教授	宇賀 美奈子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		基礎数学演習 生命学 臨床人間学スタディーズ 臨床社会学スタディーズ ジェンダースタディーズ コミュニケーションスタディーズ
兼担	特任教授	桑原 修 () 〈令和6年4月1日〉 修士 (法学)
		基礎演習 I 基礎演習 II 人間学
兼担	特任教授	菅田 圭次 () 〈令和6年4月1日〉 修士 (体育学)
		基礎演習 I 基礎演習 II ボランティア活動の実践
兼担	教授	鈴木 真吾 () 〈令和5年4月1日〉 修士※ (心理学)
		人間関係論 臨床人間学スタディーズ 臨床社会学スタディーズ
兼担	教授 (副学 長)	山本 泰宏 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		現代医療史 人間学 整形外科 リハビリテーション医学 スポーツ医学
専	特任教授	永井 正則 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		生活健康学 栄養学
専	特任教授	竹川 正純 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		神経内科学 内科学

兼担	准教授	瀧口 綾 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (家政学)
		発達心理学 コミュニケーション論 リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 臨床心理学 ジェンダースタディーズ コミュニケーションスタディーズ
兼担	講師	高田 毅 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (教育学)
		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会心理学
兼担	講師	田村 正人 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (社会福祉学)
		世界の福祉 現代社会と福祉Ⅰ
兼担	講師	柁木 隆寿 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (心理学)
		神経心理学
兼担	助教	前川 真奈美 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (文学)
		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 心理学と心理的支援 (心理学概論) 共生学 健康科学論 児童青年心理学 障害者心理学

兼担	教授	瀧口 綾 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (家政学)
		発達心理学 コミュニケーション論 リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 臨床心理学 臨床社会学スタディーズ
兼担	准教授	堤 美智 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (農学)
		地域連携の理論と実際
兼担	講師	高田 毅 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (教育学)
		基礎演習Ⅰ 健康科学論 社会心理学
兼担	講師	田村 正人 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (社会福祉学)
		世界の福祉 現代社会と福祉Ⅰ
兼担	講師	柁木 隆寿 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (心理学)
		神経心理学 臨床人間学スタディーズ
兼担	講師	間嶋 健 () 〈令和5年4月1日〉 社会福祉学博士
		高齢者福祉 チーム医療演習
兼担	講師	増田 洋介 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (人間文化)
		共生学 社会保障論Ⅰ 障害者福祉
兼担	助教	前川 真奈美 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (文学)
		基礎演習Ⅱ 心理学と心理的支援 (心理学概論) 健康科学論 人間関係論 児童青年心理学 障害者心理学 コミュニケーションスタディーズ

兼担	教授	瀧口 綾 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (家政学)
		発達心理学 コミュニケーション論 リハビリテーション特別講義Ⅰ リハビリテーション特別講義Ⅱ 臨床心理学 コミュニケーションスタディーズ
兼担	准教授	堤 美智 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (農学)
		地域連携の理論と実際
兼担	准教授	高田 毅 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (教育学)
		健康科学論 社会心理学
兼担	講師	田村 正人 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (社会福祉学)
		世界の福祉 現代社会と福祉Ⅰ コミュニケーションスタディーズ
兼担	講師	間嶋 健 () 〈令和5年4月1日〉 社会福祉学博士
		精神保健学Ⅰ チーム医療演習
兼担	講師	増田 洋介 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (人間文化)
		共生学 社会保障論Ⅰ 臨床社会学スタディーズ
兼担	助教	前川 真奈美 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (文学)
		心理学と心理的支援 (心理学概論) 健康科学論 児童青年心理学 障害者心理学 コミュニケーションスタディーズ

兼担	助教	宮澤 江梨子 () 〈令和5年4月1日〉 学士(福祉心理学)
		基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 健康科学論
兼担	講師	宮村 りさ子 () 〈令和5年4月1日〉 修士(健康心理学)
		就労支援サービス 精神保健学Ⅰ
兼担	教授	桎本 温 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		臨床医学総論 薬学
兼担	教授	藤井 充 () 〈令和5年4月1日〉 学士(医学)
		公衆衛生学
兼担	教授	窪川 理英 () 〈令和5年4月1日〉 博士(医工学)
		健康科学論
兼任	講師	岡田 大助 () 〈令和5年4月1日〉 修士(学術)
		人権と法

兼任	講師	宮澤 江梨子 () 〈令和5年4月1日〉 修士(社会福祉学)
		精神保健学Ⅰ
兼担	教授	桎本 温 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		臨床医学総論 薬学
兼担	教授	石野 徳子 () 〈令和5年4月1日〉 博士(医学)
		健康科学論
兼担	教授	坂本 文子 () 〈令和5年4月1日〉 博士(看護学)
		チーム医療演習
兼担	教授	藤井 充 () 〈令和5年4月1日〉 学士(医学)
		公衆衛生学
兼担	准教授	窪川 理英 () 〈令和5年4月1日〉 博士(医工学)
		健康科学論
兼担	助教	伊丹 幸子 () 〈令和5年4月1日〉 修士(看護学)
		チーム医療演習
兼任	講師	岡田 大助 () 〈令和5年4月1日〉 修士(学術)
		人権と法 人間学

兼担	教授 (学長)	桎本 温 () 〈令和5年4月1日〉 医学博士
		臨床医学総論 薬学
兼担	教授	藤井 充 () 〈令和5年4月1日〉 学士(医学)
		公衆衛生学
兼担	准教授	窪川 理英 () 〈令和5年4月1日〉 博士(医工学)
		健康科学論
兼担	特任教授	森川 三郎 () 〈令和6年4月1日〉 修士※(学術)
		健康科学論 チーム医療演習
兼担	助教	伊丹 幸子 () 〈令和5年4月1日〉 修士(看護学)
		チーム医療演習
兼任	講師	岡田 大助 () 〈令和5年4月1日〉 修士(学術)
		人権と法

兼任	講師	本多 英彦 () 〈令和5年4月1日〉 理学博士
		物理基礎
兼任	講師	大幡 久之 () 〈令和5年4月1日〉 薬学博士
		化学基礎
兼任	講師	長谷川 真紀子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		比較行動学
兼任	講師	小林 千尋 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		小児科学
兼任	講師	久保木 智洸 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)
		精神医学
兼任	講師	井出 輝美 () 〈令和5年4月1日〉 学士 (福祉経営学)
		障害者福祉
兼任	講師	播摩 友里子 () 〈令和5年4月1日〉 学士 (社会福祉学)
		精神保健学Ⅱ

兼任	講師	本多 英彦 () 〈令和5年4月1日〉 理学博士
		物理基礎
兼任	講師	大幡 久之 () 〈令和5年4月1日〉 薬学博士
		化学基礎
兼任	講師	長谷川 真紀子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		比較行動学
兼任	講師	小林 千尋 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		小児科学
兼任	講師	久保木 智洸 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)
		精神医学
兼任	講師	井出 輝美 () 〈令和5年4月1日〉 学士 (福祉経営学)
		就労支援サービス
兼任	講師	播摩 友里子 () 〈令和5年4月1日〉 学士 (社会福祉学)
		精神保健学Ⅱ
兼任	講師	久保田 茂希 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		運動学Ⅰ 運動学Ⅱ
兼任	講師	花城 久子 () 〈令和5年4月1日〉 専門学校卒
		小児理学療法学
兼任	講師	柿崎 崇 () 〈令和5年4月1日〉 専門学校卒
		精神障害作業療法治療学演習

兼任	講師	本多 英彦 () 〈令和5年4月1日〉 理学博士
		物理基礎
兼任	講師	大幡 久之 () 〈令和5年4月1日〉 薬学博士
		化学基礎
兼任	講師	長谷川 真紀子 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		比較行動学
兼任	講師	小林 千尋 () 〈令和5年4月1日〉 博士 (医学)
		小児科学
兼任	講師	久保木 智洸 () 〈令和5年4月1日〉 修士 (医科学)
		精神医学
兼任	講師	播摩 友里子 () 〈令和5年4月1日〉 学士 (社会福祉学)
		精神保健学Ⅱ
兼任	講師	花城 久子 () 〈令和5年4月1日〉 専門学校卒
		小児理学療法学
兼任	講師	柿崎 崇 () 〈令和5年4月1日〉 専門学校卒
		精神障害作業療法治療学演習

					中込 慶太 () 〈令和5年6月1日〉 修士 (法学)			中込 慶太 () 〈令和5年6月1日〉 修士 (法学)
			兼任	講師	精神作業療法評価学演習 精神障害作業療法治療学			精神作業療法評価学演習 精神障害作業療法治療学
								加藤 智也 () 〈令和6年4月1日〉 修士 (教育学)
								精神障害作業療法治療学演習
								須永 範明 () 〈令和6年4月1日〉 博士 (心理学)
								神経心理学
								鈴木 敦子 () 〈令和6年4月1日〉 博士 (医学)
								生理学実習
								手塚 恵 () 〈令和6年4月1日〉 学士 (社会福祉)
								就労支援サービス 高齢者福祉

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・令和5年4月 源裕介講師(専任)、石井智也講師(専任)、向山秀助教(専任)、間嶋健講師(兼任)、増田洋介講師(兼任)着任
- ・令和5年4月 小川麻里子(専任)講師昇任、関根聡美(専任)講師昇任、瀧口綾(兼任)教授昇任
- ・担当科目調整により、以下の教員の担当科目を変更
(専任) 小沢健一、粕山達也、坂本宏史、成昌燮、高村浩司、田中将志、三科貴博、榎田哲弥、浅野克俊、甘利貴志、大塚篤也、岡猛、坂本祐太
元山美緒、渡辺俊太郎
(兼任) 宇賀美奈子、鈴木真吾、高田毅、榎木隆寿、前川真奈美
(兼任) 岡田大助、井出輝美
- ・他学科からの所属変更のため、以下の教員を兼任から変更
(兼任) 山本泰宏、永井正則、竹川正純
- ・他学科への所属変更のため、以下の教員を変更
(兼任) 升佑二郎、松崎昇、スタージョン ジェイソン デイソン、堤美智
- ・授業科目の充実のため、以下の教員を追加
(兼任) 石野徳子、坂本文子、伊丹幸子
(兼任) 宮澤江梨子、久保田茂希、花城久子、柿崎崇、中込慶太
- ・職位の誤記 窪川理英(兼任)

【令和6年度】

- ・令和6年1月 稲場直子准教授(専任)退職
- ・令和6年3月 甘利貴志助教(専任)退職
- ・令和6年4月 福田京佑助教(専任)、桑原修特任教授(兼任)、菅田圭次特任教授(兼任)着任
- ・令和6年4月 榎田哲弥(専任)講師昇任、浅野克俊(専任)講師昇任、坂本祐太(専任)講師昇任
- ・担当科目の調整により、以下の教員の担当科目を変更
(専任) 小沢健一、粕山達也、坂本宏史、志茂聡、成昌燮、高村浩司、田中将志、三科貴博、源裕介、石井智也、大塚篤也、岡猛、小川麻里子
関根聡美、向山秀、元山美緒、渡辺俊太郎
(兼任) 松崎昇、宇賀美奈子、鈴木真吾、瀧口綾、高田毅、榎木隆寿、間嶋健、増田洋介、前川真奈美、石野徳子、坂本文子、
(兼任) 宮澤江梨子、岡田大助、井出輝美、久保田茂希
- ・他学科への所属変更のため、以下の教員を変更
(兼任) 山本泰宏
- ・授業科目の充実のため、以下の教員を追加
(兼任) 森川三郎
(兼任) 加藤智也、須永範明、鈴木敦子、手塚恵

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づき「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) -① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) -② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
15	8
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
12	2	1	13	28	0	11	2	5	8	26	0
(12)	(2)	(1)	(13)	(28)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
12	2	4	10	28	1	11	2	6	8	27	1
[0]	[0]	[0]	[Δ3]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[1]	[0]	[Δ1]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{28} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{26} = \boxed{11.53} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
							該当なし
合計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	准教授	稲場 直子	R6.1	必修	基礎演習Ⅰ	①	R6.1.31付けで私事都合のため辞任（６）						
				必修	基礎演習Ⅱ	①							
				必修	生理学	①							
				必修	生理学演習	①							
				必修	生理学実習	①							
				必修	研究法概論	①							
				選択	卒業研究	①							
2	助教	甘利 貴志	R6.3	必修	理学療法演習Ⅰ-1	①	R6.3.31付けで私事都合のため辞任（６）						
				必修	理学療法演習Ⅰ-2	①							
				必修	理学療法研究法	①							
				選択	卒業研究	①							
				必修	理学療法演習Ⅱ-1	①							
				必修	理学療法演習Ⅱ-2	①							
				必修	内部障害系理学療法評価学演習	①							
				必修	クリニカルリレーズニング	①							
				必修	運動療法学	①							
				必修	理学療法演習Ⅲ	①							
				必修	内部障害系理学療法実習	①							
				必修	日常生活活動学実習	①							
				必修	義肢装具学	①							
				必修	義肢装具学実習	①							
				必修	理学療法演習Ⅳ	①							
				必修	理学療法特論	①							
				必修	予防理学療法学	①							
				必修	見学実習	①							
				必修	地域理学療法学実習	①							
				必修	検査測定実習	①							
				必修	評価実習	①							
				必修	総合臨床実習	①							
合計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
2	人	必修	27	科目	必修	27	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	29	科目	計	29	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)								
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)			②の合計数(b)			③の合計数(c)		
2 人	必修	27 科目	必修	27 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	29 科目	計	29 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{28} = 7.14 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ **令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。**

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況		辞任等の理由						
								該当なし						
合計						後任補充状況の集計								
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人		必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見：退職する教員の科目は延べ29科目であるが、他の専任教員が担当を継続するため教育の質は十分担保できる。
 学生への周知方法：シラバスに反映させ、周知した。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和4年)	特になし 【届出】 遵守事項		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	特になし 【届出】 遵守事項		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）（６）」と記載してください。

【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし。	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

・FD委員会

健康科学大学に設置する各学部にはFD委員会を設置している。

当該委員会は、授業の内容及び教育方法の改善と向上を目的とし、運営会議、各学部教授会のほか他委員会と連携を取りながら学部内におけるFD活動の推進を図っている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

<令和5年度出席状況>

5月12日（6名出席）、10月10日（6名出席）、3月18日（3名出席）

c 委員会の審議事項等

授業の内容及び教育方法の改善と向上を図るための組織的な取り組みとして、FDに係る企画及び実施に関する事項、情報収集及び分析に関する事項を審議する。

② 実施状況

a 実施内容

授業の内容及び教育方法の改善と向上を図るための組織的な取り組みとして、FDに係る企画及び実施に関する事項、情報収集及び分析に関する事項を審議する。

b 実施方法

Microsoft Teamsを活用したオンライン形式で講義・質疑応答を実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<令和5年度開催状況>

・「基礎演習 初年次教育」の取り組みに関する研修会

対象：全教員 方法：講義形式

参加者数：健康科学部専任教員15名及び助手1名、看護学部は映像アーカイブによる情報共有

・専門基礎分野における教育の実践例に関する研修会

対象：全教員 方法：講義形式

参加者数：健康科学部専任教員21名及び助手1名、看護学部は映像アーカイブによる情報共有

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

新任教員への教育に関わる支援、授業の内容及び教育方法の改善と向上を図ることを目的とした企画の立案及び実施、授業評価アンケートの設問の検討、Web形式による授業評価アンケートの実施、シラバスの様式及び作成要領の確認等に取り組んでいる。

b 教員や学生への公開状況、方法等

a 実施の有無及び実施時期

前期・後期に各1回、実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果について、各授業担当者に公開するとともに、各授業担当者はアンケート結果に基づいて「考察」を作成し、学内及び大学ホームページにて閲覧・開示している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

「該当なし」

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

「該当なし」

c 委員会の審議事項等

「該当なし」

d その他

「該当なし」

② 審議状況

a 審議した内容

「該当なし」

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

「該当なし」

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・我が国では少子高齢化や後期高齢者の増加、グローバル化を始めとする急激な社会の変化に伴い、これからの医療・福祉のあり方が社会的な検討課題になっている。健康科学大学(以下「本学」という。)は、このような社会のニーズに応えるため、「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の3つを兼ね備えた人材の育成を建学の精神として設置した。
- ・令和6年3月の「令和5年度大学機関別認証評価報告書(公益財団法人日本高等教育評価機構)」による評価結果では、使命・目的及び教育目的については、学則、ホームページ、大学案内等に具体的かつ簡潔に明文化しており、個性・特色についてもそれらに明示するとともに、入学式の学長式辞や理事長告辞等にて学内外に周知している。また、理事会等を通じて役員、教職員の理解を得ており、社会情勢等への対応あるいは必要に応じた見直し等も行っている。使命・目的等については、中期計画である「学校法人健康科学大学経営計画」及び三つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に反映し、それらを達成するために必要な学部・学科等の教育研究組織を整備していると評価され、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・令和5年度の報告書は大学ホームページ上に公開している。
- ・令和6年度に関しては令和6年3月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和12年に評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を受審する。

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

健康科学大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成26年8月20日

学 長 制 定

(設置)

第1条 健康科学大学（以下「本学」という。）各学部にはファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学のファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）に関する事項を審議し、これに係る諸活動の推進を図ることを目的とする。

(定義)

第3条 この規程におけるFDとは、授業の内容及び教育方法の改善と向上を図るための組織的な取り組みをいう。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) FDに係る企画及び実施に関する事項
- (2) FDに係る情報収集及び分析に関する事項
- (3) その他FDに関する事項

(組織)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 健康科学部

- ア 各学科から選出された教員 各1名
- イ 学長が必要と認めた者

(2) 看護学部

- ア 看護学科教員3名以上
- イ 学長が必要と認めた者

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長等)

第7条 委員会に委員長を置き、委員の中から学長が指名した者を充てる。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員会に副委員長を置き、委員の中から委員長の指名する者を充てる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第8条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、会議を開き、決議することができない。

3 委員会は、必要に応じて委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

4 委員会の議事は、会議に出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(審議結果の報告)

第9条 委員長は、委員会の審議を健康科学大学運営会議（以下「運営会議」という。）に報告するとともに、自ら又は指名する委員をもって教授会に報告するものとする。

(細則の制定)

第10条 委員長は、委員会の運営に必要な事項について、委員会の議を経て細則を定めることができる。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て学長が決定する。

(庶務)

第12条 委員会の庶務は、健康科学部にあっては教務部教務課、看護学部にあつては看護事務室において処理する。

附 則

この規程は、平成26年8月20日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月23日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2024年4月1日から施行する。